

介護福祉学生が「地域」について学ぶ意義と課題

Student care workers learning about “community” :

A study of its significance and associated issues

合 津 千 香

Chika GOZU

要旨

介護福祉士養成教育では、平成21年度からのカリキュラム改訂により、これまでの教育内容が『介護』の枠組みの中で統合再編され、「地域」について学ぶ位置づけや科目が変化している。そこで、本学で実施した「地域」について実践的に学ぶ試みを報告し、介護福祉学生が「地域」について学ぶことの意義と課題について考察した。結果として「地域」について学ぶことは ①利用者との信頼関係構築に役立つ、②利用者のその人らしさを重視した個別ケアにつなげられる、③地域連携のコーディネーターの役割を担う力を養う、④地域包括ケアシステムの一員としての役割を担う力を養う、⑤自分自身が地域の一員として地域を担っていく力を養う、の5点で意義深い。その学びを実現させるには地域との連携により実践的に学ぶ機会をもつことと、科目間連携のもとで「地域」に関する教育を組み立てることが課題である。

【キーワード】 介護福祉士養成教育 地域 新カリキュラム 教育内容 生活交流演習

はじめに 研究の背景と目的

介護福祉士養成教育では平成21年度からのカリキュラム改訂にともない、「地域」について学ぶ位置づけが変化している。旧カリキュラムでは、社会福祉概論のなかで「地域福祉の概念」を学ぶとされていたのに対し、新カリキュラムでは領域「人間と社会」の中の「社会の理解」において「地域」を取り上げ、「地域」「コミュニティの概念」「都市化」「過疎化」「地域社会の集団・組織」について学ぶこととなった。そのねらいは「個人が自立した生活を営む」ということを理解するために「個人、家庭、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養う」とされている。しかし、全国版のテキストでは、実際の地域の様子やそこに生活する人々の思いなどを学ぶことは難しい。「個人が自立した生活を営む」ということを理解するために「地域」について学ぶのであれば、実際の身近な地域の歴史や文化・人々の地域活動にふれて、生活を「地域」に根ざしたもものとして理解する必要があるのではないだろうか。

また、近年の学生は地域や地域活動についての関心や体験が乏しいと思われる。本論文は、介護福祉士養成教育において、「地域」についての理解や地域実践への参加、地域福祉教育を重視する立場から、現在本学で試行している「地域」の理解と地域交流のとらえ方について報告し、介護福祉士養成教育において学生が「地域」について実践的に学ぶ意義と課題を明らかにすることを目的とする。

1. カリキュラム改訂と介護福祉教育における「地域」の位置づけ

平成19年12月「社会福祉士及び介護福祉士法の一部を改正する法律」が公布され、介護福祉士についての定義規定、義務規定の見直し、資格取得方法の見直しが行われた。これを受けた「介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて」では、「現行の教育内容を『介護』の枠組みの中で統合再編することを基本とし」「介護実践に資する教育内容となるよう充実・強化」するとした。そして現行のカリキュラムにとらわれない「人間と社会」「こことからだのしくみ」「介護」の3領域を構成することとした。旧カリキュラムでは「社会福祉概論」で「地域福祉の概念」について学んでいたが、新カリキュラムでは、[表1]のとおり、領域「人間と社会」の「生活と福祉」「社会保障制度」と領域「介護」の「介護を必要とする人の理解」「介護実践における連携」でそれぞれ「地域」について学習することとなった。

同時に今回の教育内容の見直しでは、介護実習についても訪問介護・小規模多機能型居宅介護などの「利用者の生活の場」である居宅サービスの実習を確保し、個別ケアを体験・学習することが望ましいとし、在宅や地域での自立支援について学ぶことが明記された。さらに、資格取得時の介護福祉士養成の目標の1つとして「利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状況を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供でき

る能力を身につける」ことを挙げている。

一方、介護保険法の動向は、平成18年の法改正では地域密着型サービスの創設や地域包括支援センターの設置、続く平成24年の法改正では「高齢者が地域で自立した生活を営めるよう」地域包括ケア

システムの実現を打ち出している。このような動きから、介護福祉士には、「地域」に目をむけ、「地域」の社会資源と協働して自立生活を支援していく力量が重要となっていると考える。

[表1] 介護福祉士養成課程における「地域」に関する教育内容

領域	大項目	中項目	小項目	本校の科目名
人間と社会	生活と福祉	①家庭生活の基本機能 ②家族 ③地域 ④社会、組織 ⑤ライフスタイルの変化 ⑥社会構造の変容 ⑦生活支援と福祉	③ ・ <u>地域の概念</u> ・ <u>コミュニティの概念</u> ・ <u>都市化と地域社会</u> ・ <u>過疎化と地域社会</u> ・ <u>地域社会の集団・組織</u>	現代社会と福祉 (1年前期)
	社会保障制度	②日本の社会保障制度の発達	② ・日本の社会保障制度の基本的な考え方、憲法との関係(中略) ・社会福祉法 ・福祉六法 ・地域福祉の充実 ・社会保障構造改革	社会保障論Ⅰ (1年後期)
介護	介護を必要とする人の理解	④介護を必要とする人の生活環境の理解	④ ・生活・生活環境の考え方 ・家庭・ <u>地域</u> ・社会	介護福祉対象論 (1年前期)
	介護実践における連携	② <u>地域連携</u>	② ・ <u>地域連携の意義と目的</u> ・ <u>地域住民、ボランティア等のインフォーマルサポートの機能と役割、連携</u> ・ <u>地域包括支援センターの機能と役割、連携、その他</u> ・ <u>市町村、都道府県の機能と役割、連携、その他</u>	介護福祉サービス論 (2年後期)

社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針について
(厚生労働省社会・援護局長 平成23年10月28日) 別表1 教育内容より抜粋

2. 授業展開

平成24年4月から6月に介護福祉学科1年に対して、必修科目「現代社会と福祉」と「生活交流演習」において次のとおり「地域」の理解に関する授業内容を実施した。

「現代社会と福祉」

(1年前期・必修講義科目 30時間2単位)

〔授業の最終到達目標〕

自分のこれまでの生活を振り返ることより、個人の暮らしが家族、地域、社会との関連で成り立っていることを理解できる。

テキスト 新介護福祉士養成講座「社会と制度の理解」中央法規

授業15回のうち6回で「地域」について学習する。

〔表2〕「現代社会と福祉」の授業展開

実施日	授業テーマ	授業内容
5/2	「地域」って何	自分の生活している地域で行われている活動を出し合い、地域には「治安、防犯、防災、環境保全、伝統文化の継承、冠婚葬祭、レクリエーション、情報の共有、生活の交流、助け合い、教育、福祉などの機能があることに気づく。そして地域のつながりの希薄化に気づく。
5/9	・昔からの地域のつながり ・地域の範囲 テキスト P.19-25 ・コミュニティとアソシエーション ・福祉コミュニティ ・都市化と過疎化 ・市町村合併	「結い」「隣組」について知る。地域が重層的な構造になっていること、制度的に様々な地域の範囲が設定されていることを理解する。コミュニティとアソシエーションの違い、福祉コミュニティの概念について理解する。都市への人口集中と過疎化の問題点、市町村合併について理解する。
5/16	「ご近所の底力——お年寄りの孤独死」 (NHKテレビのビデオ)	高齢者の孤独死(孤立死)を防ぐために各地で実践されている地域福祉活動についてのビデオを視聴し、内容と自分の考えをまとめる。
5/23	笹賀地区の地域活動を知る1 「笹賀子ども安全サポーターの活動・二美町2丁目の活動」 (笹賀地区のボランティア作成の パワーポイント使用)	短大の立地する笹賀地区で実施されている、子どもの登下校の見守り活動と、笹賀地区二美町2丁目町会の公民館を拠点とする地域活動の実践内容を学ぶ。
5/30	笹賀地区の地域活動を知る2 「公民館居酒屋」 「安心ファイル」「買い物お助け隊」(新聞切り抜き使用)	笹賀地区内の町会で、それぞれニーズに合わせて実践されている、居酒屋、災害に備えた安心ファイル、交通弱者に対する買い物支援の実践内容を学ぶ。
6/6	地域福祉って何 阪神淡路大震災の話 地域福祉における住民参加	地域の福祉課題を公的サービスと地域住民等のインフォーマルサービスで解決していくシステム作りと実践が地域福祉のめざすものであり、活動への住民参加と計画策定への住民参加が必要であることを理解する。 通学・通勤者などの昼間滞在者もその地区の住民であることを理解する。

「生活交流演習」

(1年通年・必修演習科目 60時間2単位)

〔授業の最終到達目標〕

- ①学生間や教員との交流
- ②地域の生活に目をむけ、高齢者との交流や郷土食の調理をとおして、生活体験を広げる。
- ③介護現場への興味や理解を深め、ボランティア活

動を実施したり、介護のやりがいをPRする。

「生活交流演習」は、全教員がそれぞれ少人数の学生を担当し、チューター制で実施している。内容は年間計画を学科会で決定し、テーマごとに担当教員が企画・準備をして、全体で実施している。30回の授業のうち、地域についての6回を筆者が担当し、地域の方々との連絡調整等を行った。

[表3] 「生活交流演習」の授業展開

実施日	授業テーマ	授業内容
5/7	笹賀地区の歴史と文化1 「笹賀地区の紹介・民話・松本短期大学との関わり」 「笹賀地区防災訓練」 (笹賀地区紹介の合津作成のパワーポイント使用)	笹賀地区の位置、人口、歴史、民話を紹介して、人々の生活を知る。松本短大の校地は、笹賀小学校跡地であることを知り、校地内の笹賀小学校校歌の歌碑を見学する。 平成21年に松本短大体育館で実施した地区防災訓練の様子を知り、地域の一員として地区の防災の一翼を担う必要があることを知る。
5/14	笹賀地区の歴史と文化2 特別講義「松本短期大学周辺の近現代の史跡探訪」	講師として笹賀地区歴史の会の方を招き、松本短大周辺(神戸町会周辺)の史跡の沿革と場所について講義していただく。周辺に戦争の爪痕が多くあることに気づく。
5/21	笹賀めぐりの計画	チューター会ごとにコースの計画、行き先の下調べ、資料の読み合わせ、役割分担など行う。
6/4	笹賀めぐり 小俣観音堂コース 今村観音堂コース 神戸散策コース	チューター会ごと3コースに分かれて見学する。両観音堂は、松本市重要文化財に指定され、地域の財産であり地域の文化継承の役割を担っている。それぞれの観音堂を管理されている地域の代表の方から解説していただき、説明を受ける。神戸町会は短大の位置する地域であり、寺社や石碑などを徒歩で散策する。
6/11	笹賀めぐりのまとめ	チューター会ごとに笹賀めぐりの写真や感想をまとめて、壁新聞を作成し校内の廊下に展示する。

3. 研究方法

1) 調査対象者と調査期間

平成24年度前期「現代社会と福祉」「生活交流演習」を受講した介護福祉学科1年生48名。調査期間は平成24年6月である。

2) 調査方法

「地域」に関する授業11回終了後に質問紙を使用し、自記式アンケート調査で回答を得た。

3) 調査項目

- ①印象に残った授業
- ②学習前後での地域についての考え方の変化
- ③介護をする上で役立つこと
- ④今後学びたいこと

4) 倫理的配慮

学生の感想用紙には、無記名で個人を特定できないこと、本研究以外に使用しないこと、協力は自由とすることを明記し、協力を依頼した。

4. 結果

対象者48名に対し42名の回答があり、回答率は87.5%であった。

学生が印象に残った授業としては、[表4]のとおりであった。実際に地区の方から案内や説明をし

ていただき見学したことや、地区の活動の実際について学んだ授業が印象に残ったということがわかった。また、テレビ番組はポイントを押さえて地域課題と解決策がまとめられていたために印象に残ったと考えられる。

アンケートの自由記述をまとめると[表5][表6][表7]のようになった。学生の学習前後での地域についての考え方は、これまで漠然としていた「地域」というものに関心をもつようになったといえる。とりわけ笹賀地区については、地域の人々の地区に対する愛着や思い、努力や活動にふれて感動すると同時に、身近に感じ、通学途中にも意識的に地域の様子を見るようになったという回答があった。そして、自分自身の態度として地域の行事や活動にも参加していくべきという考えがみられた。さらに地域は人と人のつながりであり、支え合っているということが実感として学べたようである。

介護をする上で役立つこととしては、地域の生活や歴史について知っていることで、サービス利用者とのコミュニケーションの話題が増えること、そのことによって親しみを持ってもらえるということを経験している学生が多数を占めている。また、利用者の生活してきた地域を知ることで地域への愛着、価値観やその

[表4] ①学生が印象に残った授業 (11回の授業のうち3つ選択)

「現代社会と福祉」

	授業テーマ	人
1	「地域」って何	2
2	昔からの地域のつながり 地域の範囲	0
3	「ご近所の底力——お年寄りの孤独死」	14
4	笹賀地区の地域活動を知る1	10
5	笹賀地区の地域活動を知る2	13
6	地域福祉って何 地域福祉における住民参加	1

「生活交流演習」

	授業テーマ	人
1	笹賀地区の歴史と文化1	7
2	笹賀地区の歴史と文化2	8
3	笹賀めぐりの計画	1
4	笹賀めぐり	14
5	笹賀めぐりのまとめ	1

[表5] ② 学習前後での地域についての考え方の変化

地域への関心に関する記述	人
地域の人がほんとに笹賀が好きで大切に思っている	6
笹賀を身近に感じるようになり、登下校の際に道ばたまで見るようになった	5
笹賀は地域の人とのつながりが強くてびっくりした 団結が素晴らしいと思った	5
地域に関心をもった	3
笹賀って何もないところだと思っていたが、素晴らしい人や交流、歴史があつて良いところだと思った。	2
地域の人々で文化財を守っていることに驚いた	1
笹賀めぐりの時に会った人たちが、親しく挨拶してくれた 松短に特別な思いがあるのだと思った	1
どんな土地にいても地域に関心をもつきっかけになる	1
自分の態度に関する記述	
地域の一員として行事や活動に参加していくことが大切になると思った	4
孤独死を防ぐためにもなるので、関わるべきだという考えになった。	2
地域の風習を続けて行かなくてはならないと考えた	2
地域の理解に関する記述	
地域というものは、支え合うことによって成り立っていると感じた	5

[表6] ③ 介護をする上で役立つこと

地域の昔の生活や歴史を知ることが高齢者とのコミュニケーションに役立つ	人
地域の昔の生活や歴史を知ることが高齢者との話題ができ、コミュニケーションに役立つ	19
ひとりひとりの利用者さんの地区を調べれば話題が増えるかなと思う	1
地域を知ることが高齢者の理解につながる	
生まれ育った地域を理解することにより、親しくなれ、信頼関係を築くことが出来る	5
その人がその地域に生きてきて何を大切にしているのか理解できる	3
高齢者が役割を持つ意味で大きなヒントがあるのではないかな	1
施設での介護や施設の地域交流に活かせる	
施設のある地域で地域交流を行ったりすることに結びつく	2
施設のなかの配置（部屋割り）を考えたり出来る	1
施設のある地域の歴史を調べると、その歴史について利用者様と会話がひろがる	1
地域ケアに活かせる	
地域のなかで介護サービスが受けられると良い	2

[表7] ④ 今後学びたいこと

笹賀のことを知り、地域の人と交流したい	人
笹賀のことをどんなことでも知りたい	4
笹賀の農家の現状を知る	1
笹賀地区の人たちともっと関わりたい 交流したい	4
ホームヘルパーになりたいので笹賀のお年寄りの家に訪問させていただきたい	1
昔の地域生活について学びたい	
地域の支え合い活動について知りたい	3
昔からの行事や生活習慣を知りたい	2
地域をいろんな視点から見て知りたい	2
昔の生活を詳しく知りたい	1
地域の特産品、食べ物などを学びたい	1
自分の住んでいる地域や他の地域について学びたい	
自分の地域の特徴について知りたい	3
自分の地域で今どんな取り組みをしているか知っておきたい	2
笹賀以外の地域、長野県（中信）の伝承について調べてみたい	2
外国の活動について	2
東京などの地域の活動を知りたい	1
その他	
新参者の入り方、受け入れ方を学びたい	1
高齢者と若者の結びつきについて、共存できる地域とは	1
グループ学習みたいなのをやりたい	1
地域の介護	1

人らしさ、地域で果たしてきた役割などを理解し、個別ケアに役立つと考えている。学生が施設に就職しても、利用者の出身地に配慮したり、施設の立地する地域について調べたり、地域の行事に参加するなどの地域交流にも活かせると回答した学生もいた。1年生であるため「地域包括ケア」についてはまだ学習していないが、住み慣れた地域で介護サービスを利用して生活するという事に考えが及んでいる学生もいる。

今後学びたいこととしては、たいへん多岐にわたり、学生の学習意欲を示している。笹賀のことをさらに知り、地域の人と交流したい、昔の地域生活について学びたい、自分の住んでいる地域や他の地域について学びたいなど、地域について学生の関心が高まったといえる。

5. 考察

「地域」について学ぶ意義と今後の課題

笹賀地域をとおして学習した結果、地域にはその歴史や人々のつながり、支え合いがあり、地域の人々が自分の地域を大切に思っていることを、学生は学んでいる。そして、地域を身近に感じるようになり、その一員として地域活動に参加したり、地域の文化や風習を引き継いでいくべきなどの自覚をもった学生もいた。そして「地域」についての学びは、利用者とのコミュニケーションをとり、理解するために役立つと考えており、さらに学びたいという意欲が見られた。

これらは、テキストだけでは学ぶことの出来ない実践的な学びであった。介護福祉士養成課程において、地域のなかで「個人が自立した生活を営む」ということを理解するためには、地域福祉の概念を学ぶだけでなく、地域に出て、実践的に地域から学ぶことが求められているのである。以下、3点について介護福祉学生が「地域」について学ぶ意義と今後の課題を論じる。

(1) 科目間連携と学びの発展

今回の授業展開は、「現代社会と福祉」で学ぶ「地域」について「生活交流演習」を合わせて2か月にわたって展開することによって、介護を学び始めて日の浅い学生に「地域」の人々の生活を学ばせることができた。1年前期に「地域に根ざした人々の暮らし」について地域の人から直接学ぶことは、その人らしい「当たり前の」生活を考えるための一助となるものであり、学ぶ意義がある²⁾と考える³⁾。

科目間の連携という視点で考えると、介護福祉士養成課程の必修科目「現代社会と福祉」と同時進行で、本校独自の科目「生活交流演習」の時間を活用

することによって、地域の講師を招いたり、地域の方の案内で地域めぐりをするなどの実践的な学習が実現したといえる。これらを同じ教員が担当したことから、振り返りをしたり、つながりを意識しながら展開することが出来た。

さらに同時期には、他教員の担当する「介護福祉対象論」で身近な高齢者へのライフストーリーの聞き取りを課題として、発表会を実施している。「地域」と「個人」の双方向から、地域に根ざした生活にふれることで利用者理解のきっかけにつながったと考えられる。

また、1年前期の「介護総合演習」は、筆者を含めた3人の教員で担当している。初めての演習である介護導入実習Ⅰのオリエンテーションにおいて、実習生と利用者とのコミュニケーション場면을教員がロールプレイで演じることにしたが、その話題として「笹賀地区」の話を取りあげた。これも複数の教員が「生活交流演習」での「笹賀地区の歴史と文化」を学生と一緒に受講していたために実現できたことである。学生が地域の人とのつながりについて学んだことにより、初めての演習でコミュニケーションのきっかけがつかめ、利用者の自宅や地域に対する思いが引き出せると気づかせることができた。

1年後期と2年後期では、筆者が「社会保障論Ⅰ」「介護福祉サービス論」を担当するため、社会福祉の発展の中での地域福祉の重要性や、介護保険制度の中での地域包括ケアのしくみ、インフォーマルケアや行政の役割について段階的に教授したい。さらに、1年後期の2月の介護導入実習Ⅱでは、社会福祉協議会の訪問介護事業所での実習となるため、住み慣れた自宅や地域の生活の尊重と留意点について前期に学んだことと関連をもたせて、指導していく必要がある。また、学生が今後学びたいとした地域の風習や昔の遊び、郷土食などについては、2年後期の選択科目「地域生活と文化」で学ぶことが出来ることになっている。いずれにしても、新しい枠組みのカリキュラムが発効して4年目であり、いつ、どの内容をどの科目で教授するのか、さらに教員間の連携と教授内容の検討が必要である。

(2) 学習方法について

今回の授業では、地域の人から直接話を聴いたり、実際に地域に出かけることによって、学生が積極的に学べた⁴⁾と考える。また、ビデオや写真の活用も有効であった。そして、何よりも、短大の立地する笹賀地区の住民による地域福祉活動が活発であること、この数年で短大との連携が進んできたことなどの環境が整い、地域の方の協力が得られたことが、この授業展開を実現できた要因である。

学生たちの要望として「地域の人たちと交流を持ちたい。」「長野県の行事や生活習慣、郷土食などについて学びたい。」「長野県以外の地域についても学びたい。」「自分の地域のことについて調べたい。」などの意欲を活かした学習方法について検討していく必要がある。小グループで調べ学習をしたり、地域での聞き取り調査なども時間の余裕があれば実施してみたい。「自分の地域の行事や活動に積極的に参加したい。」等の感想から、学生の「地域」への関心、地域の一員としての自覚の喚起ができたと考えられる。短大生として地域に貢献できることについても考えさせるようにしたい。

(3) 地域連携のできる介護福祉士の養成

介護の現場では、地域包括ケアシステムが推進されていく現状にあるため、地域との関わりを重視して介護を実践できる力量が介護福祉士に求められている。学生の多くは施設職員として介護現場に就職するが、地域についての学びを利用者の理解と個別ケアに活かすと同時に、施設の立地する地域にも目を向けることが期待される。施設の利用者が地域の人たちと交流し、地域の一員として生活できるような取り組みをすすめるために、施設で働く介護福祉士には施設と地域とのコーディネート力が必要となる。

一方、居宅サービスや地域密着型サービスの事業所に就職する学生も増加しているが、これらの現場では、他の居宅サービスや地域住民の支え合い活動と連携して地域包括ケアを実践して行くことが求められている。1年後期の介護導入実習Ⅱでは訪問介護事業所において実習し、居宅サービスを利用しながら地域で生活する人々にふれる機会となる。今後、2年間の介護福祉士養成課程をとおして段階的に「地域」についての学習や地域交流を積み上げていく必要がある。

また、災害時には専門職としてサービス利用者だけでなく、地域に住む要介護者の援護にあたるということもあり得るので、施設や事業所が普段から近隣自治会と一体となって地域防災をすすめる必要がある。このように介護現場において目の前の利用者だけでなく、地域や地域に生活する要援護者にも目を向けられる素地を介護福祉士養成教育の中で位置づける必要があるのではないか。

6. 結論

介護福祉学生が「地域」について学び、地域交流することの意義は、次の5点にまとめられる。

①地域の歴史や文化、生活習慣などを学ぶことによって、利用者と共通の話題ができ、利用者との

信頼関係構築に役立つ。

- ②利用者の生活してきた地域を知ることによって地域への愛着、価値観や地域で果たしてきた役割など要介護者を理解する一助となり、その人らしさを重視した個別ケアにつなげることができる。
- ③施設に勤務した場合に地域連携のコーディネーターの役割ができるような力を養う。
- ④居宅サービスに従事した場合に他の居宅サービスや地域住民と連携・協働して地域包括ケアシステムの一員として利用者を支援する力を養う。
- ⑤自分自身が地域の一員としての自覚をもち、自分の地域の行事や活動に参加して、地域づくりを担っていく力を養う。

7. おわりに 今後の課題

2年間の介護福祉士養成教育においては、施設・居宅・地域密着型の各介護現場で、利用者の心身状態やこれまでの生活に合わせた介護実践が出来るだけでなく、地域との交流や協働活動を推進できる介護福祉士の養成に努めていきたい。「地域」という漠然としたものを理解するには養成課程の中で、実際に地域の人々にふれ、実践的に学ぶ機会が必要である。さらに主体的な学習や、学生としての地域貢献ができるとうまいであろう。利用者の生活してきた「地域」についての理解を利用者理解につなげ、事業所の対象とする「地域」や施設の立地する「地域」とのつながりを重視し、専門職として地域参加できる介護福祉士を養成するために、カリキュラムの各科目の教育内容と教育方法の検討、科目間連携を推進していかなければならない。

【注】

- 1) 新しい介護福祉士養成カリキュラムの基準と想定される教育内容の例 (案)
社会保障審議会福祉部会 平成18年11月20日
- 2) 貫ら (2010) は、施設実習に行く前に介護福祉士学生が地域の高齢者と交流することをとおして、高齢者に対するイメージの肯定化と好意的な評価を得る機会を設定することは効果的であるとしている。
- 3) 西川 (2011) は、介護福祉学生は実習体験以外にも、地域の福祉実践とかかわる体験の中で、地域の中での暮らしを身近にする必要があり、そのような体験を新カリキュラムでも継続させていく努力が必要としている。

参考文献

厚生労働省報告書 「介護福祉士のあり方及びその
養成プロセスの見直しに関する検討会」
2006

貫優美子ほか 九州保健福祉大学研究紀要 11 号
「地域の高齢者を支える介護福祉教育の充実を目標して」 2010

西川ハンナ 共栄学園短期大学研究紀要 27 号
「介護福祉士養成における地域福祉教育の効果と課題」 2011